

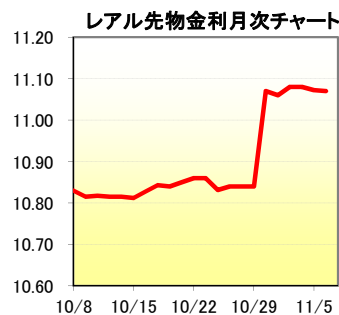
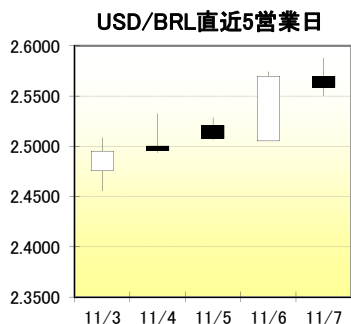
Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



1. マーケット・レート

			11月3日	11月4日	11月5日	11月6日	11月7日	Net Chg
Forex	USD/BRL	Spot	2.4950	2.4960	2.5080	2.5700	2.5590	-0.0110
	USD/YEN	Spot	113.78	113.56	114.70	114.93	114.53	-0.4000
	EUR/USD	Spot	1.2489	1.2555	1.2481	1.2386	1.2443	+0.0057
	BRL/YEN	Spot	45.60	45.50	45.74	44.72	44.76	+0.0400
Swap	Dollar Clean	6MTH(p.a.)	1.43	1.43	1.40	1.49	1.63	+0.1440
		1Year(p.a.)	1.85	1.89	1.88	2.00	2.10	+0.1010
	Real Interest	6MTH(p.a.)	11.81	11.67	11.86	11.96	11.92	-0.0337
		1Year(p.a.)	12.25	12.28	12.25	12.38	12.29	-0.0928
Stock	Bovespa		53,947	54,384	53,698	52,637	53,223	+585.79
Bond	CDS Brazil 5y		161.87	164.63	162.00	169.00	172.02	+3.0200
	Global 40		108.000	107.950	107.950	108.050	107.900	-0.1500

* これらはインターバンク市場等におけるブラジル市場終了時のインディケーションです。実際のレート提示は弊社担当アカウント・オフィサーまでお問い合わせ下さい。



2. 主要経済指標

イベント	予想	実績	前回
IBGEインフIPCA(前月比)	0.48%	0.42%	0.57%
IBGEインフIPCA(前年比)	6.65%	6.59%	6.75%

3. 要人コメント

マンテガ財務相

ガソリン価格上昇のインフレーションへのインパクトは0.1%程度である。

4. 週間市況、トピックス

- 今週の為替相場はUS\$1=R\$2.4760で寄り付いた。ブラジル中銀による週次のアナリスト予想調査では2014年のGDP見通しが0.27%から0.24%に下方修正された。また為替予想は大統領選挙結果を受けてレアル安方向に修正された(2015年末に2.55)。政策金利は2015年末予想が11.50%から12%に引き上げられた。
- 週初は朝方からレアル買いが優勢で週間高値となるUS\$1=R\$2.4560をつけた。しかし、エネルギー株を中心にボベスパ指数が軟調推移するとレアルは下落に転じた。また、市場から評価の低い財務長官が新政府で重要な役職につくとの報道もありレアルは2.50割れまで下落した。
- ISM製造業景況指数を始め米国の経済指標が総じて強い一方で、ブラジルは鉱工業生産などが弱く、ファンダメンタルズ格差からレアルは弱含んだ。4日には米中間選挙があり、野党の共和党が8年ぶりに上院多数派を奪還し上下両院の多数を占めた。事前予想通りの内容にドル資産に買い安心感が広がり、レアルは2.53台までジリ安となった。
- 週央には新規材料に乏しく、2.50-2.53のレンジ内取引が続いたが、新政権の人事が決まらないことやCOPOM議事録で利上げサイクルに対するトーンが予想よりハト派だったことを受けて、大口のレアル売りが見られレアルは2.57台半ばまで下落した。
- 7日朝方にレアルは週間安値となるUS\$1=R\$2.5880をつけたが、10月米雇用統計で非農業部門雇用者数が予想を下回ったことからドルが売られ、2.5500まで反発した。結局US\$1=R\$2.5590で越週した。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成されたものですが、その情報の正確性、安全性を保障するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。

Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



5.来週発表される主要経済指標

日付	イベント	期間	予想	前回
11/10	IGP-M Inflation 1st Preview	Nov	--	-0.07%
11/10	FGV CPI IPC-S	Nov-09	--	0.43%
11/10	貿易収支(週次)	Nov-09	--	--
11/11	FIPE CPI-週次	Nov-07	--	0.37%
11/14	小売売上高(前月比)	Sep	0.2%	1.1%
11/14	小売売上高(前年比)	Sep	-0.2%	-1.1%
11/14	広義小売売上高(前月比)	Sep	0.2%	-0.4%
11/14	広義小売売上高(前年比)	Sep	-1.8%	-6.8%
11/14	登録雇用創出合計	Oct	--	123785

6.来週の為替市場注目点

予想相場レンジ : 2.45-2.60

今週は期待された新政権の人事が発表されず、ガソリン価格の再調整が予想を下回ったことへの失望感もあり、ブラジル株式市場が軟調に推移し、レアルも下落した。発表されたCOPOM議事録で市場が想定していたよりもハト派の内容となっていたことも、利上げ観測の後退からレアル売りの要因となった。レアルは大統領選直後につけた安値を更新し、一時2.5880を示現している。

米中間選挙や雇用統計などの大型のイベントを終了し、来週は利益確定の動きが出やすいと予想する。本日発表された10月の米雇用統計は非農業部門雇用者数が市場予想の前月比235千人増に対し214千人増となり、予想を下回ったことからドルが売られた。しかし、前月分が248千人から256千人に上方修正されており、今回発表された水準自体も200千人以上で決して弱い水準ではない。また、失業率は5.9%の予想に対して5.8%と、2008年7月以来の水準まで改善し、更に労働参加率も前月から改善している。一部の数字が予想を下回ったことが、ここの所ずっと強含んで来たドルの利益確定の動きに繋がったという向きが強く、売り一巡後は再びドル堅調に転じると見ている。

一方、ブラジルサイドは新政府の人選が難航しており、改革への期待感が後退している。足元のファンダメンタルズも弱く、買い材料に乏しい。年末までに発表すると宣言されている新政府の経済対策プログラムの内容が見えてくるまではレアルは弱含みの展開を予想する。来週は利益確定のレアル買戻しが一巡すれば、再びレアルは下値を模索する動きとなるだろう。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成したのですが、その情報の正確性、安全性を保障するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。

Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A Treasury Department